

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	体育	担当教員	久世早苗 山本浩貴 麻草 淳	
学年学科	2 年 MEDCA 学科	通 年	必修	2 単位
学習・教育目標 (A-3) 100%				
授業の目標と期待される効果： 個人種目や集団種目を実践することで、種目の特性に触れ、体力・技能・の向上を図る。また、協調性や協力する態度を育み、各人モラルの高揚に務め、人間性を高める。以下に具体的な学習項目を示す。 ①バレーボールの特性に触れ、集団技能と個人技能を高める。 ②サッカーの特性に触れ、集団技能と個人技能を高める。 ③体力テストの実施より、体力の変化を確認し、体力向上に努める。 ④泳力の向上に努める。		成績評価の方法： 体育実技の評価は、以下 5 つの項目により観点別評価をおこない総合評価をおこなう。 ①自ら学ぼうとする「関心・意欲・態度」 ②運動実践場面での「思考力・判断力」 ③基礎技術や応用技術に対する「運動技能」 ④運動技能やルールに対する「知識・理解度」 ⑤チームスポーツを通して、集団における自己の役割を自覚し、戦略戦術への貢献度及び協調性について評価する。 ③の技術評価は以下の取り組みから行う。 前期：バレーボール ・基礎技術修得度（サーブ、パス、スパイク、レシーブ） ・試合での技能評価 体力テストの自己評価 水泳（バタフライ泳法） 後期：サッカー ・基礎技術修得度（ドリブルパス、リフティング） ・試合での技術評価		
		達成度評価の基準： ①様々な運動に対して主体的に取り組むことができる。 ②自己やチームの課題に対して適切な取り組みができる。 ③運動・ゲームを構成する基本技術が身についている。 ④種目の特性を理解し、実践場面で適切な判断ができる。 ⑤集団における自己の役割を自覚し、能力に応じた貢献ができる。		
授業の進め方とアドバイス： それぞれの種目特性を理解し楽しさを感じるためには、個人技能の向上が不可欠である。事前に教科書に目を通しておき、練習やゲームに積極的に取り組むこと。また、練習やゲームを安全で円滑に進めるために、互いに協力し、各自の役割を果たすこと。 ※授業内容は、健康・安全面への配慮から、天候等により変更することがある。				
教科書および参考書： ステップアップ高校スポーツ（大修館）				
授業の概要と予定：前期				ALのレベル
第 1 回：バレーボール導入（バレーボールの特性と基礎知識、安全上の諸注意、基礎練習）				C
第 2 回：バレーボール 基礎練習と簡易ゲーム（サーブ、パス、レシーブ、簡易ゲーム、審判法）				B
第 3 回：バレーボール 基礎練習とチーム練習、試合①				B
第 4 回：球技大会 種目別練習…班別練習 （ソフトボール・ソフトテニス・サッカー・バスケットボール・バレーボール・卓球）				B
第 5 回：球技大会 チーム別対抗戦 （ソフトボール・ソフトテニス・サッカー・バスケットボール・バレーボール・卓球）				B
第 6 回：体力テスト グループ測定 種目（50M 走・ハンドボール投げ・長座体前屈・上体起こし）				B
第 7 回：体力テスト グループ測定 種目（握力・反復横跳び・立ち幅跳び・シャトルラン）				C
第 8 回：バレーボール 基礎練習とチーム練習、試合②				C
第 9 回：バレーボール 基礎練習とチーム練習、試合③				B
第 10 回：バレーボール 基礎練習とチーム練習、試合④				B
第 11 回：バレーボール 基礎練習とチーム練習、試合⑤ ゲーム評価				B
第 12 回：バレーボール 基礎技術のテスト、試合（サーブ・レシーブ・スパイク）ゲーム評価				B
第 13 回：水泳（バタフライ・水球）班別練習と班別対抗試合				B
第 14 回：水泳（バタフライ・水球）班別練習と班別対抗試合				B
第 15 回：水泳（バタフライ）班別タイム測定				B

授業の概要と予定：前期	ALのレベル
第16回：球技大会 種目別練習…班別練習 (ソフトボール・ソフトテニス・サッカー・バスケットボール・バレーボール・卓球)	B
第17回：球技大会 チーム別対抗戦 (ソフトボール・ソフトテニス・サッカー・バスケットボール・バレーボール・卓球)	B
第18回：サッカー導入(サッカーの特性と基礎知識、安全上の諸注意、基礎練習)	C
第19回：サッカー 基礎練習と簡易ゲーム(各種キック、パス、ドリブル、トラップ、審判法)	B
第20回：サッカー チーム別基礎練習とハーフコートゲーム(ルールと審判法の実際)①	B
第21回：サッカー チーム別基礎練習とハーフコートゲーム(ルールと審判法の実際)②	B
第22回：サッカー チーム別基礎練習とハーフコートゲーム(ルールと審判法の実際)③	B
第23回：サッカー チーム別基礎練習とオールコートゲーム(ルールと審判法の実際)①	B
第24回：サッカー チーム別基礎練習とオールコートゲーム(ルールと審判法の実際)②	B
第25回：サッカー実技評価テスト(ドリブル走測定・リフティング測定・オールコートゲーム③)	B
第26回：サッカー実技評価テスト(ドリブル走測定・リフティング測定・オールコートゲーム④)	B
第27回：サッカー (インドア フットサルゲーム)	B
第28回：サッカー (インドア フットサルゲーム)	B
第29回：サッカー (インドア フットサルゲーム)	B
第30回：後期のまとめ、1年間の体育実技のまとめ(評価方法の説明と講評)	

評価(ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	様々な運動に対して主体的に取り組む、各種目の楽しさや喜びを味わうことができる。	様々な運動に対して主体的に取り組むことができる。	様々な運動に対して主体的に取り組むことができない。
②	自己やチームの課題に対して適切な取組みや工夫ができる。	自己やチームの課題に対して適切な取組みができる。	自己やチームの課題に対して適切な取組みができない。
③	効率的な技術やゲームにおける効果的なプレーができる。	運動・ゲームを構成する基本技術が身についている。	運動・ゲームを構成する基本技術が身につけていない。
④	種目の特性を理解し、プレーヤーとしてのみならず審判としてゲームの進行ができる。	種目の特性を理解し、プレーヤーとして適切な判断ができる。	種目の特性を理解できておらず、プレーヤーとして適切な判断ができない。
⑤	自己の役割を自覚し、授業の運営・チーム力の向上などに大いに貢献できる。	自己の役割を自覚し、能力に応じた貢献ができる。	自己の役割を自覚できず、能力に応じた貢献ができない。